

## 06 地名についての由来や意味

人が暮らしてきた土地には、その土地で暮らした人が呼びならわしてきた川の名や道の名、町や集落の名など、様々な地名があります。現在の《ヤウンモシリ》(北海道)には、深山にも海浜にもいたるところにアイヌ語由来の地名があり、アイヌ民族の暮らさぬ土地は無かったことがわかります。また、アイヌ語地名は《ヤンケモシリ》(樺太) 南部から《ルトム》(千島列島) 全域、本州の宮城県・山形県付近まで濃厚に分布し、かつてそこにアイヌ語の世界が広がっていたことをうかがうことができます。

例えば、これらの地域には「登別」や「稚内」のように「べつ」や「ない」のつく地名があちこちに見られます。

これらはいずれも、アイヌ語で《ペッ》(川) や《ナイ》(沢) を意味し、河川に関連する地名です。アイヌ文化に限らず、伝統的な暮らしの中では、川は交通路としても食料などを得る場所としても大切な存在だったことから、川の様子や特徴、暮らしとの関わりなどを表す地名が多く残っています。

和人は、当初はカタカナを用いてこれらの地名を書いていましたが、幕末から数度にわたって漢字化を試みました。これはいうまでもなく、アイヌ民族の居住地を日本が領有していることを対外的に強調するためでした。

初期には様々な漢字を組み合わせ、アイヌ語の音を表現する努力がされました。しかし、難読や長いなどの理由から、律令制に由来する「好字二字」(好ましい意味を持つ文字二文字) を用いるように、と方針が転換されました。これによって、長い地名は前後を切り詰められ、また漢字の読みに引き寄せられ、発音が大きく変わってしまう事態が頻繁に起きました。

例)

- ・オタツニオマフ (原義：川尻にカバの木が群生している川)  
→於尋麻布 (おたずねまっぶ) →麻布 (まっぶ)
- ・スマトゥカリ (原義：石原の手前を流れる川)  
→朱円 (しゅまとかり) →朱円 (しゅえん)

また「郷土愛を醸成するためにはアイヌ語は不適」という理由で、アイヌ語地

名を廃絶し、日本語地名に変えた例もあります。千歳市の根志越が清流に変更されるなど、地名の改変は近年も起きています。国連で採択された「先住民権利宣言」には、先住民に保障される権利の一つとして、在来の地名を使用し続ける権利がうたわれています。上に述べたような地名の取り扱い、和人中心主義の一つの表れであり、今後見直されることが望まれます。

## いろいろなアイヌ語地名

### ◆地形などを表す地名

川や湖、崖や岬、海岸などの地形を表す言葉に、その性質やありさまを示す言葉がついて、実際の地形の様子やそこに暮らす人々から見た特徴などを表したと思われる地名が数多く見られます。

#### ■湖・沼

- ・茨戸 ばらと（札幌市）：パラ・ト「広い・湖」
- ・洞爺 とうや（洞爺湖町）：ト・ヤ「湖・岸」

#### ■川・沢

- ・本別 ほんべつ（本別町・鹿部町など）：ポン・ペツ「小さい・川」
- ・内淵 ないぶち（名寄市）：ナイ・プツ「川・口」

#### ■崖

- ・平岸 ひらぎし（札幌市、芦別市）：ピラ・ケシ「崖・（の）端」
- ・平賀 ひらが（日高町）：ピラ・カ「崖・（の）上」

#### ■砂浜

- ・歌棄 うたすつ（寿都町）：オタ・スツ「砂浜・（の）根本」
- ・オタモイ（小樽市）：オタ・モイ「砂浜・（の）入り江」

#### ■滝

- ・層雲別 そううんべつ（上川町）：ソ・ウン・ペツ「滝・ある・川」
- ・渚滑川 しょこつがわ（滝上町～紋別市）：ソ・コツ「滝・くぼみ（滝壺）」

#### ■その他

- ・発足 はったり（共和町）：ハッタラ「淵」
- ・遠軽 えんがる（遠軽町）：インカラ・ウシ・イ「眺める・いつもする・ところ」

## ◆動物や植物に関する地名

### ■動物に関する地名

- ・幾寅 いくとら（南富良野町）：ユク・トゥラシ・ペツ「シカ・登ル・川」
- ・磯分内 いそぶんない（標茶町）：イソポ・ウン・ナイ「ウサギ・いる・沢」
- ・近文 ちかぶみ（旭川市）：チカフ・ウン・イ「鳥・いる・ところ」
- ・美馬牛 びばうし（美瑛町）：ピパ・ウシ・イ  
「カワシンジュガイ・多くいる・もの（川）」

### ■植物に関する地名

- ・鬼斗牛 きとうし（旭川市）：キト・ウシ・イ  
「ギョウジャンニク・多い・ところ」
- ・蘭越 らんこし（蘭越町・千歳市）：ランコ・ウシ・イ  
「カツラの木・群生する・ところ」
- ・多度志 たどし（深川市）：タツ・ウシ・ナイ「樺・群生する・川」

## ◆人々の暮らしに関する地名

### ■交通路などに関する地名

- ・留辺蘂 るべしべ（北見市）：ル・ペシ・ペ「道が・それに沿って下る・もの」

### ■狩猟や採集に関する地名

- ・久保内 くぼない（壮瞥町）：ク・オ・ナイ「仕掛け弓・多くある・沢」
- ・浦士別 うらしべつ（網走市）：ウライ・ウシ・ペツ「梁・ある・川」
- ・厚軽白内 あっかるうすない（月形町）：アッ・カラ・ウシ・ナイ  
「オヒョウの樹皮・（を）とる・い  
つもする・沢」

### ■信仰や儀式に関する地名

- ・乳呑 ちのみ（浦河町）：チ・ノミ・シリ「我ら・祈る・山」
- ・幣舞 ぬさまい（釧路市）：ヌサ・オマ・イ「祭壇・ある・ところ」

〈引用〉

- ・北海道立アイヌ民族文化研究センター編  
『ポンカンピソシ 9 アイヌ文化紹介小冊子「地名」』  
[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/abc/hacrc/hp/05\\_005.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/abc/hacrc/hp/05_005.htm)

〈詳しくは〉

アイヌ語地名の概説書、入門書、ウェブサイト

- ・山田伸一 2006 「アイヌ語地名の近現代史に関するノート」『北海道開拓記念館研究紀要』33号
- ・山田秀三 『アイヌ語地名を歩く』北海道新聞社 1986年
- ・知里真志保 『アイヌ語入門ー特に地名研究者のためにー』復刻：北海道出版企画センター 1984年（初版 1956年）

アイヌ語地名の専門書、資料集

- ・山田秀三 『アイヌ語地名の研究山田秀三著作集』（全4冊）草風館（新装版）1995年
- ・山田秀三 『東北・アイヌ語地名の研究』草風館 1993年
- ・山田秀三 『アイヌ語地名の輪郭』草風館 1995年
- ・山田秀三（監修）佐々木利和（編）『アイヌ語地名資料集成』草風館 1995年
- ・北海道環境生活部アイヌ政策推進局

[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new\\_timei.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_timei.htm)